

社会貢献とコミュニケーション

地域住民とのコミュニケーション

✦ 地元園児の楽しい現場見学会

2008年11月に広島県呉市の「マリノ大橋」建設工事の現場に、地元保育所の園児35名と先生方を招待し、現場見学会を開催しました。

紙芝居による施設の紹介や、建設重機のデモンストレーション等を行ない、後日、記念撮影会の写真と園児が描いた2009年の特製カレンダーを保育所にお届けすると、保育所の所長より、感謝状をいただきました。



✦ 地元子供会を対象に現場見学会と救助訓練を開催

2008年8月、神奈川県三浦市の臨海部浚渫工事の現場で、地元の4地区の子供会（約80名）を対象に現場見学会を開催しました。第1部では浚渫工事およびバックホウ浚渫船の説明を行ない、第2部では、溺れた人の救助訓練を行ないました。訓練では、2名の女性ライフセーバーが扮した溺れる人を、子供たちがロープ付きの浮き輪で救助しました。



✦ 横須賀うみかぜカーニバルに協力参加

2008年7月、当社が代表者を務める東京湾口航路（中ノ瀬航路）浚渫工事の共同企業体が、横須賀うみかぜカーニバル2008に協力参加しました。

当社は、横須賀市東部漁業協同組合の協力を得て、マゴカレイとヒラメの稚魚約6000匹の放流イベントを実施しました。

300人の親子連れが参加し、組合の活魚運搬車からバケツに稚魚を入れて手渡ししてもらい、放流用に設置したコンクリートシュートまで運んで海に次々と放流しました。

参加した子供達は、間近で見るカレイ・ヒラメの赤ちゃんに大喜びでした。



✦ 千代田区一斉清掃

本社ビルがある千代田区が主催する「千代田区一斉清掃」に合わせ、年2回（6月10日、11月6日）本社ビル周辺の清掃に参加しています。

本社ビル勤務者（希望者）が千代田区にお住まいの皆さん、そして、千代田区に通う皆さんと一緒に本社ビル周辺を清掃するとともに、路上喫煙やごみ（空き缶、吸殻等）のポイ捨て禁止についても、意識の啓発に努めています。当社では、本社のみならず、全社をあげて地域清掃に取り組んでいます。



「海の森」植樹活動に一役

2008年11月8日、東京都港湾局主催の「海の森」植樹ボランティアに本社、東京支店、グループ会社の信幸建設の有志が参加し、エノキやクロマツなどの苗木を植樹しました。

「海の森」とは、東京湾に浮かぶごみと残土で埋め立てられた広大な島を、自然豊かな緑の島に生まれ変わらせていく事業です。



エコキャップ運動

当社は、NPO法人エコキャップ推進協会が推進するエコキャップ運動に参加しています。ペットボトルのキャップを分別回収し、再資源化を促進することにより、CO₂排出量の削減に寄与するとともに、売却益で世界の子供達にワクチンを届けることができます。2009年度からは、エコキャップ活動を全社展開し、ペットボトルのキャップの回収を推進しています。



大阪クリーン作戦に参加

環境月間の6月、第5管区海上保安部をはじめ、関係する国の機関・自治体・環境団体等と協働で河川・海岸・海域のごみを回収する「大阪湾クリーン作戦」が行なわれています。

TOAグループは、毎年この清掃活動に参加しており、2008年度には延べ5カ所、74名で約300kgのごみを回収しました。



地域清掃に参加した東北支店の社員

視点

人間は考える掃除機である

東北支店 支店次長 山平 進

テレビで「旅物」をよく見る。きれいな風景が紹介される。いつか訪問することがあった時のための情報収集という邪念が少しある。それが現実となった時にわかるのだが、テレビの情報とは「ちょっと違う」。きれいな場所にごみがあるのだ。テレビはあくまでも夢を運ぶフィクションを含んだ媒体なのだ。

しかし人間は個々が生きるという現実の日々を持つ。生きるためにいろいろな行為を行なう。環境の話なら、車で排気

ガス・呼吸で二酸化炭素・行方もわからぬ分別ごみ・時には不法投棄。生きるため、個々の快楽のため、と信じて生きてきた。今も信じるきれいき好き、野原でも公園でも浜辺でも好んできれいな場所を選ぶ。だから私は街や港の清掃に励む。私の周りにはきれいな場所であって欲しい。

参加の多くなったボランティア清掃、みんなの本音は「きれいき好き」「自分のために」なのだ。理想をもつこともいいことなのだが、行動することのほうが結果的にはずっといい。みんなが掃除機になればもっと素晴らしい。

社会貢献とコミュニケーション

さまざまな社会活動に参加

■ 川崎国際環境技術展2009に出展

会 期 2009年2月17日、18日

会 場 とどろきアリーナ(川崎市中原区等々力)

当社は、長年にわたり海洋における業務に携わり、多くのことを学んできました。海の恵みを多くの生き物たちと分かち合っていきたいという想いから、干潟・浅場の自然再生技術、アサリ種苗生産などの漁場再生技術、環境配慮ニーズに応えた新しい浚渫工法などを模型や映像を使って紹介しました。



■ 地域環境の保全「緑の東京募金」

2009年2月、東京都庁で、第3回「緑の東京募金」の感謝状贈呈式が執り行なわれ、当社は、環境局長の



感謝状を頂きました。

当社は、「緑の東京募金」活動に賛同し、募金は、「海の森の整備」などの緑化事業に充てられます。

■ 西湘バイパス復旧工事で NEXCO 中日本より感謝状



神奈川県小田原市と大磯町を結ぶ西湘バイパス(全長20.8km)は、2007年9月6日から7日にかけて小田原市付近に上陸した台風9号の影響により、大磯西IC～橘IC間の延長約1kmにわたって擁壁が倒壊、一部では海側2車線の路体が崩落する甚大な被害が発生しました。

被災直後より、当社を含む数社が被害の拡大防止と安全確保のため応急の復旧工事に着手し、擁壁や路体の崩壊を防ぐため早急に資機材を調達して、被災した道路の前面に鋼矢板打設や捨石・消波ブロック投入などの突貫工事を続けました。

応急復旧に向けた関係者の奮闘により、大型連休が始まる直前の4月25日午後5時、閉鎖していた区間の通行が可能となり、暫定4車線の供用を開始しました。

2008年10月、発注者である中日本高速道路株式会社社長より、西湘バイパス復旧工事において迅速かつ精力的な取り組みで早期復旧に多大な貢献があった業者(東亜を含め5社)に対し、感謝状が贈られました。



MY OPINION ——従業員の声——

災害復旧と社会貢献

横浜支店 川崎工事事務所 副所長 小岩 武

社会が建設業に期待する役割には、本来の事業活動である社会基盤の整備とともに、突発的な自然災害に対する備えと復旧活動への迅速な対応があげられます。自然災害発生時には、短期間にさまざまな判断力と実行力が求められます。これを可能にするためには、常日ごろからの企業・個人の技術力の研鑽、情報収集・分析力の向上、発注者、協力会社、地域等との信頼に基づく良好な関係の維持が非常に重要です。今回の西湘バイパス復旧工事でも、これらを意識した普段の活動が迅速な対応を可能にし、災害復旧に貢献できたと考えます。

今後、地球規模の気候変動による自然災害の発生頻度が高まると予想されるなか、復旧活動への迅速な対応は社会貢献の重要な柱の一つであり、今回の経験が次の貢献へと繋がるよう日常業務に邁進していきたいと思えます。



❖ オウィア漁港建設工事

オウィアはカリブ海のセントビンセント島の大西洋に面した小さな漁村です。セントビンセント島はジョニー・デップ主演の映画『カリブの海賊』のロケ地でもあります。ロケ地は島の正反対のカリブ海側にありますが、オウィアは大西洋にまともに面しているため、しけや台風の影響を直接受けます。厳しい海象条件のため、実際この島の大西洋側には漁業施設はほとんどありませんでした。この工事では、漁業設備が整備されていなかったこの村に漁業促進のために漁港を建設しました。漁港の完成がこの村、この国の漁業の発展に大きく寄与することに期待しています。



大雨による土砂崩れ



土砂崩れの撤去作業



完成式典の様子



完成式典（完成した漁港施設にて）

❖ HIV/AIDS防止プロジェクト

ベトナム・カントー市で、オモン火力発電所の土木建築工事を担当しました。この工事ではJBIC（Japan Bank for International Cooperation: 国際協力銀行）およびVINAFFPA（Vietnam Family Planning Association: ベトナム家族計画協会）が主体となり、近隣住民も含めてHIV/AIDS防止プロジェクトを推進しており、発電所工事関係者にもその活動に対する協力が求められました。当社は元発注者であるベトナム電力省を含む工事関係者側の代表として参画しました。



World Aids Day の式典の状況



ローカルテレビ番組に出演する所長

MY OPINION — 従業員の声 —

エンドユーザーへの社会資本整備

国際事業部 工事部積算課 古川 義徳

海外の工事を行っていると、海外経験のない国内の技術者からは大変だろうと言われることがある。しかし、仕事の本質の部分では地球上どこでも、水は高いところから低いところへ落ちるように土木工事の基本に大差はない。

ただし、国内とは違い協力業者の技術水準が低い場合が多いために、我々職員がすべての作業を細かく理解していないと、工事はうまく進まないことが多い。

国内外を問わず我々がどのように行動しなければならないか？ 私たちは社会資本整備に携わる建設業者として、限られた資金でエンドユーザー（一般市民）にとって最大の価値をもたらす物をつくることに集約される。ゆえに、企業としてもちえる経験・知識を最大限に活用するとともに、常に変化する要求に対応し、人に喜ばれる良い施設をつくり続けて行く責任があると考えます。

